

自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表 (2020年度)

北海道社会事業協会帯広看護専門学校

カテゴリー		評価項目	平均	自己点検・自己評価	学校関係者評価(委員3名)
大項目	中項目				
I 教育理念・教育目的		(1) 教育理念・教育目的は、当校(帯広看護専門学校)の教育上の特徴を示している。	3.3	教育理念・目的は前回よりもわずかに低下しています。現在カリキュラム改正に向け、現状に対する問題意識が高まっていることも反映されていると考えます。当校では生命を尊重し人間の可能性を信じるという教育理念のもと、教育活動に取り組んでいます。この理念を軸として学生にとって学習の指針になるよう教育内容・教育方法を検討していきたいと考えています。	自己評価を支持する。 (N委員) 本年度も講義をしておりますが、多様な講義を受けて人間の持っている力を引き出すことがとても大事であるということに関して、学生の反応が高いです。特に「他者に対する信頼」「生命倫理に対する態度」これは、学年が進む毎により一層反応が高いです。この教育理念のもと、今後もカリキュラムの構築を進めていただきたいと思います。
		(2) 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。			
		(3) 教育理念・教育目的は、養成する看護師などの質を保証するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。			
		(4) 教育理念・教育目的は、養成する看護師などの質を保証するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。			
		(5) 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。			
		(6) 看護、看護学教育、学生観は、実際に教師の教育活動の指針になっている。			
		(7) 教育理念・教育目的は、養成する看護師などが卒業時点においてもつべき資質を明示している。			
		(8) 卒業時点に持つべき資質は、社会に対する看護の質を保証するのに必要なものとなっている。			
II 教育目標		(9) 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3.2	教育目標は理念・目的との一貫性があり、教育目標をゴールに各学年の年次目標を示しています。しかし卒業後の継続教育の考え方を示したうえで教育目標の設定という部分では否定的評価もあるため、現行の卒業教育の考え方・新卒者の特性なども踏まえ、さらに具体的な指針を示していくことが必要であると考えています。	自己評価を支持する。 (N委員) 卒業教育との摺り合わせと継続教育については、企業内教育だからこその役割があると思います。将来的には、ここで学んだ看護を、各企業の職場で発展させられるような自立性をもつ卒業生を輩出することを望みます。 (H委員) 卒業後の継続教育は病院と更に連携し目標設定していくことで、病院での人材育成にも繋がると考える。
		(10) 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。			
		(11) 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。			
		(12) 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。			
		(13) 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。			

III 教育課程経営	教育課程経営の活動	(14) 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	3.4	教育理念・目的の達成に向けて職員全体が到達レベルを確認しながら活動していると考えます。教員の教育・研究活動の充実として、教員の専門性を発揮できるような担当科目と時間配分は前回と比べ改善がみられましたが、授業準備のための時間が取れる体制についてはまだ検討の必要があると考えます。 学生の看護実践体験の保障については前回同様評価が高く、臨地実習指導要綱を改善したことで、臨地実習指導者と教員の協働体制、指導者と教員の役割の明確化ができ臨地実習施設との連携をより発揮できてきたのではないかと考えます。実習基幹病院には当校の卒業生も多く実習指導に携わってくれており、その支援は年々大きなものになっているといえます。 また実習に対する安全教育安全対策については2年次での講義以外に成人看護学実習前にも医療安全オリエンテーションをカリキュラム時間に組み込み継続した教育を続けています。	自己評価を支持する。 (N委員) 看護は、真剣に対象に向き合う仕事ですから、臨地実習と教員のタイアップが非常に重要です。これがなければ、1人1人の人間の看護を実施することは不可能です。臨地実習教育に関しては、これ以上に大事なことは無いと思いますし、1人1人に向き合った学生時代の体験は、将来に渡って業務ではなく、責任を深く自覚した職業人のスタートになると思われまます。 (H委員) 教員と臨地実習者の役割を明確にしたことで、臨地指導の在り方が明確になり、臨地実習指導者の指導しやすさに繋がっていると考えます。感染・安全対策においても教員と病院管理者で連携し、学生や患者の安全対策取り組んでいる。 (T委員) 臨地実習施設としては学校との連携がとれ、実習指導者と教員との協働体制もとれていると考えます。コロナ禍はありますが、今後も良好な連携が取れるよう考えていきたいと思っています。
		(15) 学修の到達について明確な考えと方と根拠をもって教育課程を編成している。			
		(16) 学生の成長について明確な考えと方と根拠をもって教育課程を編成している。			
	単元構成	(17) 明確な考えと方と根拠をもって科目・単元を編成している。			
		(18) 科目と単元の編成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある。			
	教育計画	(19) 構成した科目は看護師などを養成するのに妥当である。			
		(20) 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。			
		(21) 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師などになるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。			
	教育課程評価の体系	(22) 単位認定の基準・方法は、看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。			
		(23) 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。			
		(24) 教育課程の評価を定期的に行ない、修正している。			
		教員の教育・研究活動の充実			
	(26) 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。				
	(27) 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。				
(28) 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。					
学生の看護実践体験の保障	(29) 臨地実習施設は学生の学習を支援する体制を整えている。				
	(30) 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者・教員の役割を明確にしている。				
	(31) 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。				
	(32) 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を示している。				
	(33) 臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している。				
	(34) 学生に対する安全教育・安全対策を計画的に行っている。				

カテゴリー		評価項目	平均	自己点検・自己評価	学校関係者評価(委員3名)
大項目	中項目				
IV 教授・学習・評価過程	授業内容との一貫性 看護学としての妥当性 授業内容間の関連と発展	(35) 授業の内容は教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3.2	授業内容と教育課程の一貫性・妥当性という部分は前回平均点が3以下となっていました。今回の評価では授業内容と一貫性はわずかに上昇し平均点が3を超えています。カリキュラム改正も見据え、授業内容と科目目標との整合性、看護学教育としての妥当性など見直しは最大の課題になると考えます。学生への単位認定のための評価基準については明確に示し公平性も保てるよう教員間での検討・確認も随時実施していきまました。今後も学生に対しての効果的な教育・指導を行うために教員間で互いが教授すべき部分や進度の確認など行いながら、学生に効果的な指導ができるように教員間の協力体制を明確にしていきたいと考えます。学習支援においては入学後も担任・副担任が学習方法や目標を確認するなどしながら学習への動機づけ・支援を継続しています。また社会人基礎力を養うために入学時から意識づけし1年次終了時には科目毎の評価到達状況を確認し個々の課題を明確にし、支援をしています。	自己評価を支持する。 (N委員) 私自身の授業についても学生から妥当な評価を受けております。それは、学校から期待されている科目の目的や内容、評価についてシラバスなどで明確に示されているのみならず、日常から、教員との話し合いの場が設けられていることにあると思います。 (H委員) 臨地実習評価においても教員と臨地実習指導者間での情報共有を行い連携して評価しており、評価の公正性も保たれていると考える。学習支援においても学生の個性に対応しながら支援していることが伺える。
		(36) 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を持っている。			
		(37) 授業内容のまとまりは、看護学校の教育内容として妥当性がある。			
		(38) 授業内容の重複や整合性、発展性などが明確になっている。			
	授業の展開過程	(39) 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。			
		(40) 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。			
	目標達成の評価とフィードバック	(41) 授業評価をし、その結果に基づいて、実際に授業を改善している。			
		(42) 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。			
		(43) 単位認定の評価には公平性が保たれている。			
	学習への動機づけと支援	(44) シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。			
(45) シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。					

V 経営・管理過程	設置者の意思・指針	(46) 養成所の管理者は教育課程経営・教育評価についての考え方を明示している。	3.4	学習環境整備のための教材の計画的な購入など検討は重ねています。施設設備においては校舎設備が老朽化しているため学習環境整備については、事務とも連携し財政状況を把握した上で、より一層の努力が必要になると考えます。学生の支援についても学生の生活・学修に関して全職員で情報共有をし、支援・協力体制を整えています。必要時には保護者とも適切に連携できるような体制を整えています。広報活動については教育の特徴や魅力を伝えるため、ホームページや学校案内のパンフレットなども見直しも図っているところです。また各高校からの要望等あれば学校説明会等に積極的に参加し、模擬授業などの実施もしています。自己評価の体制については、改善がみられました。「自己評価をフィードバックし教育の充実を図る」という前回評価時の課題について授業後・実習後アンケートを改善し、教員間で統一した自己評価をしています。今回の自己点検・自己評価も踏まえ、教職員各々がどのように授業に反映していくか教育目標の維持・改善につなげ機能できるよう更に検討を重ねていきたいと考えます。	自己評価を支持する。 (N委員) 老朽化にもかかわらず、学内は学生が過ごしやすい様にメンテナンスされていると思います。ホームページを拝見しましたが、学生に関心の高い内容が発信されていると思います。 (H委員) 広報活動については、学校訪問に実習施設病院の看護師も同行することで、より学生に対し実習施設のイメージ化に繋がっていると考える。
		(47) 養成所の管理者は養成所の管理経営などについての考え方を明示している。			
		(48) 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。			
		(49) 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。			
	組織体制	(50) 養成所の組織体制は、教育理念・目的達成するための権限や役割機能が明確になっている。			
		(51) 運営組織・意思決定システムが明確になっている。			
		(52) 運営会議やその他の会議の決定事項が、職員に周知できるように整えられている。			
	財政基盤	(53) 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。			
		(54) 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。			
		(55) 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。			
	施設設備の整備	(56) 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。			
		(57) 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。			
		(58) 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。			
	学生生活の支援	(59) 学生の心理面での健康管理支援体制を整えている。			
		(60) 学生生活・学修に関しての相談に十分に応じている。			
		(61) 学生の心理面や学修状況について保護者に伝え、適切に連携している。			
	養成所に関する情報提供	(62) 教育・学習活動に関する情報提供を関係者等に行っている。			
		(63) オープンキャンパスや学校説明会などで適切な広報活動を行っている。			
		(64) 学校案内やホームページに学校の特徴や魅力が表現されている。			
自己点検・自己評価体制	(65) 自己点検・自己評価体制を整え、運営している				
	(66) 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。				
	(67) 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。				

カテゴリー		評価項目	平均	自己点検・自己評価	学校関係者評価(委員3名)
大項目	中項目				
VI	入学	(68) 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。 (69) 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性および教育効果の観点から分析し、検証している。	3.6	入学者状況・推移については分析・検証しているが、29年度の評価同様、少子化問題、看護系大学の設立により学生の確保が難しくなっている現状に変わりはありません。広報については前述したように今後も各高校への訪問など継続して積極的に実施していきたいところです。	自己評価を支持する。 (N委員) これからも学生確保については厳しい状況が続きますので、広報活動の充実によって、この学校の教育が地域に発信されることを望みます。
VII	卒業・就職・進学	(70) 国家試験対策に個々の学生に合った指導を実施するなど学校全体として取り組んでいる。 (71) 卒業時の到達状況を分析している。 (72) 卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 (73) 卒業生の就業先での情報を把握し、問題を明確にしている。 (74) 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施などができる体制を整えている。 (75) 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3.3	学生の希望により助産師学校への進学が出来ました。各病院における卒業生の活動状況については、看護部長会議等で情報交換を通して把握をしています。前回評価では卒業生の活動状況を分析しながら教育活動の見直しなどを実施していくことが今後の課題となっていました。2018年7月～10月には当校卒業生の追跡調査をし、当会退職の理由や退職後の状況等についてアンケートを実施しました。卒業生の50%が道内で勤務しており、休職中が14.2%でした。進学・キャリアアップのため又は結婚を機に当会を退職しているものが多くいました。このアンケート結果をさらに分析し、今後の継続教育へのつなげられるよう教育内容の見直し検討をしていきたいと考えます。	自己評価を支持する。 (N委員) 卒業生が全員国家試験に合格しており、進学者もいますので、スキルアップや今後の目標をもって卒業していることに今後も期待しております。 (H委員) 国家試験対策においても個々への指導が適切になされ、国家試験の合格率も高い。卒業後の動向の把握だけでなく、新卒として入職した卒業生の精神面や体調の確認、アドバイスをするなど卒業後のフォローをしていることは、卒業生が看護師として成長していくうえでの一助となっている。
VIII	地域社会・国際交流	地域社会 (76) 社会と連携に向けて、地域のニーズを把握している。 (77) 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 (78) 養成所の教育活動において、地域社会のニーズを把握する手段を持っている。 (79) 養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っている。 (80) 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 (81) 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 国際交流 (82) 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 (83) 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	2.7	前回同様低い評価となりました。海外からの受け入れ態勢や留学希望に対する体制が整えられていないためと考えます。また国際看護に関しては、科目立てしておらず災害看護に重点を置いています。学生が国際交流について関心が向けられるような教育内容についてはカリキュラム改正時の検討事項であると考えます。地域社会に関しては高齢化社会の進行や在宅看護への移行など社会状況に目を向け、地域包括ケアに貢献できる人材の育成に向けた教育を取り入れていきたいと考えます。	自己評価を支持する。 (N委員) 地域との繋がりは、学校のカリキュラムに入れ込まなくても、学生主体のサークル活動を学校が支援するという方法で、地域と繋がっていくという方法もあるかと思えます。 (H委員) 地域包括ケアの時代において看護師の役割が多様化しているため、それに対応できる看護師を育成は必須であると考えます。
IX	研究	(84) 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。 (85) 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。 (86) 研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地が養成所内にある。	2.7	前回よりもわずかではあるが評価の上昇はみられます。研究活動の保障や時間の確保など今後も検討が必要であると考えます。研究活動の保障、助言・検討の体制についても課題は前回同様であると考えます。	自己評価を支持する。